

式 辞

新年あけましておめでとうございます。

日本では古来、お正月は一年を生き抜く生命力や幸運を与えてくれる神様である年神様がやってくる日と考えられていました。やはり新年を迎えるめでたさは格別のように感じます。

初詣に行くと、参拝前に手や口を清める手水屋があります。龍をかたどった水口から水が出ていて、柄杓が添えてある設備を見たことがあるでしょう。人の密集や用具の共用に神経をとがらせていたコロナ禍には、手水屋の水は止められ、柄杓は片づけられ、その寒々とした光景に新年の清々しさもしぼむような気持ちになったものです。そして、今年、かつてのにぎわいを取り戻した初詣の様子を目にし、改めて今年がよい年になることを祈りました。

一方で、元日の午後に起こった能登半島地震に日本中がおののき、自然災害の容赦なさを思い知ることとなりました。失われた命を悼み、被災地の復興を祈り、人生には何事でも起こりうるという覚悟を持つとともに、日常のありがたみに感謝をしてほしいと強く思っています。

以上で、令和5年度第3学期始業式の式辞といたします。

令和6年1月9日

愛媛県立東予高等学校長 渡邊 琴子